

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第1回 臨界安全管理分科会議事録

1. 日時 : 2010年10月22日(金) 13時15分～16時55分

2. 場所 : 日本原燃(株)東京事務所 (物産ビル別館6階第1会議室)

3. 出席者(順不同, 敬称略) 開始時 (出席委員) 中島, 浅見, 板原, 岩田, 金子, 亀山, 熊埜御堂, 坂下, 砂田, 外池,  
広瀬, 三澤, 山口, 山崎 (14名)  
(欠席委員) 奥野, 富田, 丸岡, 山本 (4名)  
(常時参加者候補) 池田, 小田中, 田所, 田中, 名内, 橋角, 三橋 (7名)  
(事務局) 谷井

4. 配付資料

- F17SC1- 1 議事次第 (案)
- F17SC1- 2 標準委員会の活動状況
- F17SC1- 3 臨界安全管理分科会 常時参加者候補 (案)
- F17SC1- 4 作業会 委員候補 (案)
- F17SC1- 5 提案趣旨書 (2010/08/30 提案資料)
- F17SC1- 6 標準策定のスケジュール (案)
- F17SC1- 7 日本原燃(株)パンフレット「六ヶ所再処理工場の概要」
- F17SC1- 8 六ヶ所再処理工場における燃焼度クレジットを適用する設備の概要
- F17SC1- 9 2010 秋の原子力学会予稿
- F17SC1-10 各国における燃焼度クレジットの適用状況
- F17SC1-11 標準の作成方針

F17SC1-1 参考-1 臨界安全管理分科会 委員名簿

5. 議事

(1) 出席者及び資料確認

事務局より, 開始時, 委員 18 名中 14 名の出席があり, 決議に必要な委員数 (12 名以上) を満足し, 本分科会は成立している旨の報告があった。

(2) 役員を選出

○ 主査の選任並びに副主査, 幹事の指名

無記名投票により主査の互選を行った結果, 中島委員への投票は全票で, 中島委員が主査に選任された。

また, 中島主査より, 副主査に奥野委員, 幹事として板原委員が指名された。なお, 中島主査が当分科会の代表者を兼ねることが承認された。

### (3) 標準委員会の活動状況

事務局より、F17SC1-2に基づいて、標準委員会の活動状況についての説明があった。

### (4) 人事について

#### ○ 常時参加者

事務局より、F17SC1-3に基づいて、池田 整氏(一般社団法人 日本原子力技術協会)、海老原 雅典氏(原燃輸送(株))、小田中 滋氏((株)東芝)、田所 孝広氏(日立GEニュークリア・エナジー(株))、田中 誠氏((独)日本原子力研究開発機構)、名内 泰志氏((財)電力中央研究所)、橋角 賢亜氏(日本原燃(株))及び三橋 偉司氏((株)東芝)が常時参加登録を希望している旨紹介され、決議の結果、承認された。

### (5) 作業会の設置と委員承認について

中島主査より再処理施設燃焼度クレジット標準作業会の設置について提案があり、決議の結果、承認された。

事務局より、F17SC1-4に基づいて、坂下 毅一郎氏(三菱重工(株))、熊埜御堂 宏徳氏((株)東芝)、三橋 偉司氏((株)東芝)、岩田 豊氏(日立GEニュークリア・エナジー(株))、山崎 正俊氏(原子力燃料工業(株))、山口 正男氏((独)原子力安全基盤機構)、板原 國幸氏(日本原燃(株))及び橋角 賢亜氏(日本原燃(株))が作業会委員を希望している旨紹介され、決議の結果、承認された。

### (6) 燃焼度クレジット標準策定について

板原幹事より、F17SC1-5に沿って、臨界安全管理分科会を設立して再処理施設の燃焼度クレジットに係る標準を策定する趣旨が説明され、F17SC1-6により標準策定のスケジュール案が説明された。策定する標準においては、輸送・貯蔵分野の参考となるように留意することが確認された。

再処理施設において、本標準の対象となる設備範囲について質疑応答があり、使用済燃料の受入れ・貯蔵、溶解運転までの工程を対象範囲とすることが確認された。

### (7) 六ヶ所再処理工場における適用例の紹介

板原幹事より、資料F17SC1-7, 8, 9に沿って、六ヶ所再処理施設の概要の紹介、燃焼度クレジットを適用する設備の紹介及び燃焼度計測装置の説明がされた。

### (8) 海外状況の確認

山口委員より、燃焼度クレジットの適用に関するIAEAによる情報を基に作成したF17SC1-10に沿って、各国の燃焼度クレジットの適用状況に関する報告がなされた。

板原幹事より、海外の燃焼度クレジットに関する標準として、アメリカのANSI/ANS8.27「Burnnp credit for LWR fuel」及びISO/TC 85/SC 2009-01-23 ISO/DIS27 468「Burnnp Credit in evaluations of systems containing PWR fuels」(ドラフト)が紹介された。

### (9) 標準作成方針の説明

板原幹事より、F17SC1-11 に沿って、再処理施設の燃焼度クレジットに係る標準の作成方針が提案された。

#### (10) 意見交換

板原幹事より、F17SC1-11 に沿って、標準作成の方針が提案されたことを受けて、意見交換を行った。

本標準と輸送・貯蔵分野への関連・展開について意見交換がなされた結果、燃焼度クレジットを現在適用している再処理施設について標準を先ず作成すること、輸送・貯蔵分野に対しては、本標準が参考となるように作成することが確認された。

また、使用済燃料の燃焼度計測の記載方針について意見交換がなされた。

その結果、燃焼度計測に関する一般的な要求事項を記載して作成することが確認された。

作業会において標準の本文箇所（ドラフト）のたたき台を作成して、次回の分科会において議論することを確認した。

#### 6. その他（次回分科会等）

次回分科会開催日程については、後日メールにより調整・連絡することとした。

以 上